平成25年度
精度管理調査報告会
細胞検査部門

精度管理事業部員　榊原　沙知　（豊橋市民病院）
実務担当者　橋村　正人
（国家公務員共済組合連合会名城病院）

調査概要

参加施設

５３施設

昨年度から2施設増加

実施項目

フォトサーベイ

評価対象　10症例

評価対象外　2症例

調査概要

評価基準

評価A	正解	「基準」を満たし、極めて優れている
評価B	許容正解	「基準」を満たしているが、改善の余地あり
評価C	不正解	「基準」を満たしておらず、改善が必要
評価D	不正解	「基準」から極めて大きく逸脱し、早急な改善が必要

症例1～10の判定および推定病変について正解（許容正解）を設定し、評価した

昨年度からの変更点

- **日臨技の精度管理システム（JAMTQC）にて実施**
- **婦人科症例の判定ではベセスダシステムを使用**

昨年度のアンケート結果より、参加施設のほとんどでベセスダシステムを取り入れていることが確認されたため

出題症例（評価対象）

	材料	推定病変		材料	推定病変
症例1	子宮膣部擦過	ヘルペス感染	症例6	口腔擦過	扁平上皮癌
症例2	子宮膣部擦過	軽度異形成	症例7	カテーテル尿	尿路上皮癌
症例3	子宮内膜擦過	正常内膜腺上皮	症例8	乳腺穿刺	線維腺腫
症例4	気管支擦過	アスペルギルス	症例9	リンパ節捺印	ホジキンリンパ腫
症例5	右肺下葉腫瘍捺印	カルチノイド	症例10	胸水	形質細胞腫

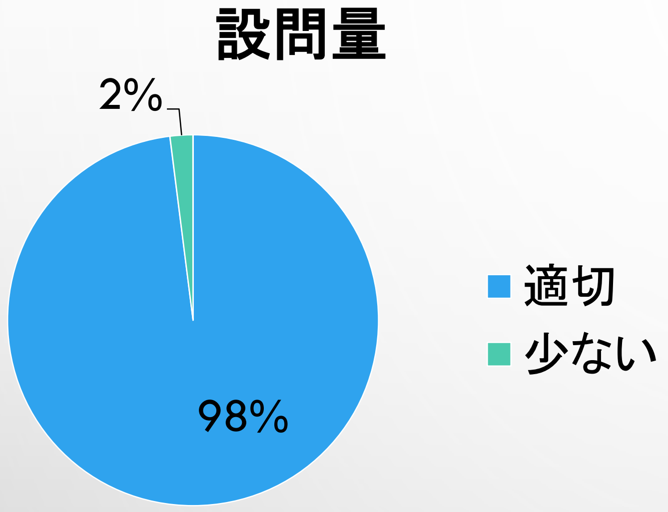
各設問の正解率

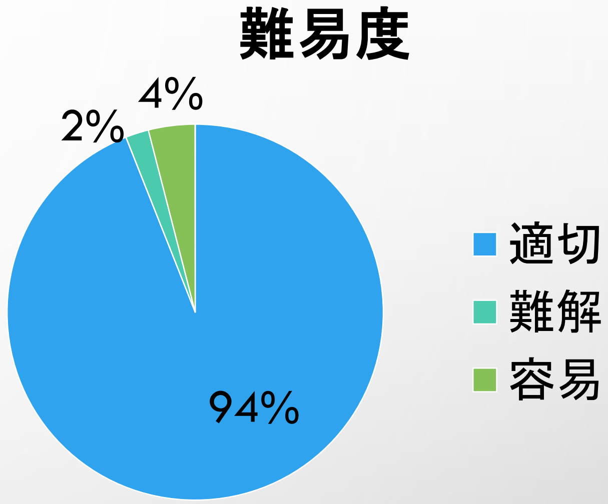
	症例1	症例2	症例3	症例4	症例5
判定	100%	100%	100%	100%	100%
推定病変	100%	100%	100%	100%	98.1%

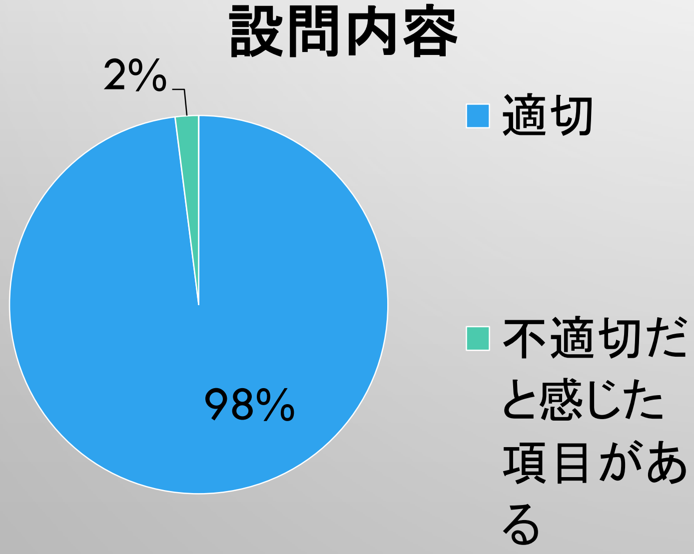
	症例6	症例7	症例8	症例9	症例10
判定	100%	100%	100%	100%	90.6%
推定病変	96.2%	100%	100%	100%	86.8%

各設問の正解率は概ね良好であった

アンケート結果 - 評価対象設問について -







評価対象外設問

- 評価対象外設問では、回答の集計結果を基に、次年度以降に評価対象設問としての出題を検討している
- 昨年度に引き続き、液状化検体細胞診（LBC法）にて標本を作製した婦人科症例を出題した

	材料	推定病変
症例11	子宮腟部擦過（液状化検体細胞診）	トリコモナス感染
症例12	子宮腟部擦過（液状検体細胞診）	中等度異形成

症例12（評価対象外設問）
- HSIL・中等度異形成 -

判定	回答率	推定病変	回答率
HSIL	49.1%	中等度異形成	47.2%
LSIL	28.3%	軽度異形成	35.8%
ASC-US	11.3%	扁平上皮化生細胞	13.2%
NILM	7.5%	高度異形成	3.8%
ASC-H	3.8%		

<u>回答にばらつきが見られた</u>

　→昨年度も扁平上皮異形成病変の設問にて回答にばらつきが見られていたことから、細胞所見の周知とともに、出題写真についての検討が必要であると考える

まとめ

- 参加施設数は53施設で、昨年度から2施設増加した
- 今年度より日臨技の精度管理システム（JAMTQC）にて実施したが大きな問題は確認されなかった
- 各設問の正解率は概ね良好であった
- 評価対象外設問として出題したLBC標本症例については回答にばらつきが見られ、今後の課題と考える